

2. 整備事業

(宮城県 令和2年度)

市町村名	事業実施主体名	メニュー (対象作物・畜種等名) ①	成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分 (円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都県の評価	備考
				被災前 22年度	1年後 (平成29年)	2年後 (平成30年)	3年後 (令和元年)	目標値 (令和元年)	達成率				交付金	都県費	市町村費	その他				
仙台市	南赤石畜獣駆除友の会	イノシシ	イノシシによる農作物被害を軽減(20%)	(平成28年度) 被害額 1,548千円 被害面積 1.5ha 被害量 7,860kg	194千円	0千円	0千円	被害額 1,238千円 被害面積 1.2ha 被害量 6,288kg	499.4%	-1,548千円	太白区南赤石地区、侵入防止柵(7作→ノシシ柵 1.3km)	912,600	912,000	0	0	600	H30.2.28	平成30、31年度は被害が発生しなかったが、ワイヤーメッシュ柵設置後、クマイノシシを誘き寄せられることも多いので、定期的に行い、維持管理に努めていく。	侵入防止柵の設置及び設置後の適切な維持管理により農作物被害が大幅に減少し、目標を達成することができた。引き続き、適切な侵入防止柵の維持管理や緩衝帯設置を期待する。	
仙台市	馬場地区獣害対策協議会	イノシシ	イノシシによる農作物被害を軽減(20%)	(平成28年度) 被害額 1,961千円 被害面積 1.9ha 被害量 9,956kg	184千円	588千円	2,109千円	被害額 1,569千円 被害面積 1.5ha 被害量 7,965kg	-37.8%	148千円	太白区馬場地区、侵入防止柵(ワイヤーメッシュ柵 3.0km)	2,646,000	2,646,000	0	0	0	H30.3.29	平成29、30年度は被害の減少目標は大きく下回っているが、平成31年度は被害額、被害面積、被害量の全てが大幅に増加した。これは、ワイヤーメッシュ柵に慣れたイノシシが農地への新たな侵入経路を覚えてしまったことが原因と考えられる。既存のワイヤーメッシュ柵については、侵入防止柵未設置箇所への追加設置や、侵入防止柵及び周辺環境の適切な管理を行う必要がある。またイノシシの侵入経路の再調査を行い、侵入経路が未設置箇所の場合には新たに防除柵を設置する。なおも侵入してくる個体がいる場合には、仙台市鳥獣被害対策実施隊の協力を得て捕獲を行う。	イノシシが新たな侵入経路を獲得したことが主な原因と考えられる。仙台市におけるイノシシの有畜補償頭数が増加していることから、イノシシの生息頭数が増加により被害額が増加した可能性も考えられる。イノシシの侵入経路を調査を行った上で、必要に応じて侵入防止柵未設置箇所への追加設置や、侵入防止柵及び周辺環境の適切な管理を行う必要とあり、維持管理に努めていく。またイノシシの侵入経路の再調査を行い、侵入経路が未設置箇所の場合には新たに防除柵を設置する。なおも侵入してくる個体がいる場合には、仙台市鳥獣被害対策実施隊の協力を得て捕獲を行う。	
仙台市	坪沼北地区獣害対策協議会	イノシシ	イノシシによる農作物被害を軽減(20%)	(平成28年度) 被害額 7,742千円 被害面積 7.5ha 被害量 39,300kg	0千円	1,926千円	0千円	被害額 6,194千円 被害面積 6.0ha 被害量 31,440kg	500.1%	-7,742千円	太白区坪沼地区、侵入防止柵(ワイヤーメッシュ柵 13.0km)	11,879,977	11,879,000	0	0	977	H30.3.29	平成31年度は被害が発生しなかった。しかしながら、ワイヤーメッシュ柵に慣れたイノシシが道路などから侵入するようになっていると考えられるので、電気柵等で個々の農地を囲って防護するとともに、見まわり、補修、草刈りなどを定期的に行い、維持管理に努めていく。	侵入防止柵の設置及び設置後の適切な維持管理により農作物被害が大幅に減少し、目標を達成することができた。引き続き、適切な侵入防止柵の維持管理や緩衝帯設置を期待する。	
大崎市	(株)花見園ファーム	採卵鶏	飼養羽数 231,000羽	255,000羽 (内訳) 山船越農場 80,000羽 小川農場 40,000羽 大熊農場 115,000羽 谷川農場 20,000羽	165,000羽	231,000羽	231,000羽	231,000羽	100.0%	目標年における飼養羽数は231,000羽とされており、達成率100%となった。	ワイドレス鶏舎693.8㎡×4棟(鉄骨構造)付帯設備、造成工事(法面崩壊復旧)	703,080,000	325,000,000	0	0	378,080,000	H30.3.29	令和元年から順次自社育成雛に切り替わり、その成績も予定通り推移していることから、成果目標である飼養羽数231,000羽について、目標を達成しています。なお、令和2年度中に全ての鶏舎において、自社育成雛に切り替わるため、生産成績は今後さらに安定していくものと思われま。	成果は十分に達成していると評価する。平成30年より継続して目標を達成しており、今後も継続した採卵鶏経営の安定が期待される。	
都県平均達成率		75.0%	4地区	県全体(4地区)の平均達成率は75.0%であり、目標未達となった。地区ごとでは達成が3地区、未達成が1地区であった。達成地区については、侵入防止柵の適切な維持管理及び緩衝帯の設置による侵入防止効果の維持、継続した採卵鶏経営の安定に向け、引き続き指導・支援していく。未達成地区については、イノシシが新たな侵入経路を獲得してしまっことが主な要因であることから、新たな侵入経路の調査及び侵入防止柵の設置、本事業で整備した侵入防止柵の適切な管理について指導・支援していく。																